

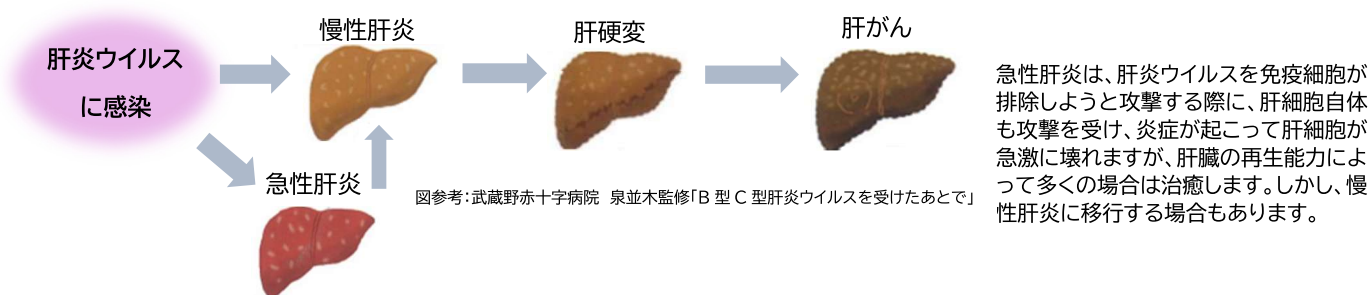
B型肝炎・C型肝炎の話 肝炎ワクチン接種の重要性について

● 肝炎とは

肝炎とは肝臓の細胞に炎症が起こり、肝細胞が壊されて肝臓の働きが悪くなる病気です。日本においては、B型肝炎ウイルスあるいはC型肝炎ウイルスによる「ウイルス性肝炎」が約8割を占めています。

● ウイルス性肝炎とは

ウイルス性肝炎のうち、B型肝炎ウイルスによるものをB型肝炎、C型肝炎ウイルスによるものをC型肝炎と呼びます。肝臓は症状があらわれにくいので、“沈黙の臓器”といわれています。本人が気づかぬうちに徐々に進行し、肝臓の炎症が6ヵ月以上続いた状態が「慢性肝炎」です。「慢性肝炎」になり、炎症がさらに長期化すると、肝硬変、肝がんになりやすくなります。また、急性肝炎を起こす場合もあります。



● B型肝炎ウイルスは感染しやすい

B型肝炎ウイルスはアルコールで消毒しても不十分です。感染して劇症肝炎になれば、5人に一人は命を落とすと言われています。さらに、B型肝炎のウイルスは、一旦感染すると、肝炎にならなくても、からだの細胞の奥深くに潜みます。

【感染ルートはさまざま】

病原体	感染率
B型肝炎ウイルス (HBV)	20~40% (HBe抗原陽性例)
C型肝炎ウイルス (HCV)	1.2~10%
ヒト免疫不全ウイルス(HIV)	0.1~0.4%

※ 1986年以降は、母親がB型肝炎ウイルスに感染していても、生まれてくる子供への感染予防措置がとられるようになっています。

【感染ルートはさまざま】

- 母子感染
- 性交渉
- 不衛生なピアスの穴開け
- 入れ墨(タトゥー)
- 違法薬物による注射器の使い回し
- 歯ブラシ・カミソリなどの共有

HIVの100倍以上

参考: 日本環境感染学会ワクチンに関するガイドライン改定委員会 医療関係者のためのワクチンガイドライン【第2版】

● B型肝炎・C型肝炎の感染予防について

HBs抗原、HBs抗体、HCV抗体の採血検査を行い、自身の抗体の有無(陽性 or 陰性)を知りましょう。

☆HBs抗体が陽性の場合: B型肝炎ウイルスに対する免疫を獲得しているため感染率は大きく低下します。

☆HBs抗原抗体が陰性の場合: B型肝炎ワクチンを3回接種(1シリーズ)し免疫を獲得しましょう。

(本学では6月・7月・12月に無料で行っています。1シリーズ行わなければ効果の保証はありません)

☆HCV抗体が陰性の場合: C型肝炎予防のためのワクチンは、今のところありません。

B型肝炎抗原抗体検査・C型肝炎抗体検査を受け、免疫獲得のために
B型肝炎ワクチンを接種しましょう。

(本学では無料で実施しています。)